



Title	大阪大学 日本学報 第35号 編集後記／奥付
Author(s)	
Citation	日本学報. 2016, 35
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55495
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

『日本学報』の編集担当になったのは、今から4年前、2012年のことであった。その際には「東アジアの家族写真の展開と表象」という特集を組んだが、諸般の事情で実現しなかった。6人の論文を掲載できなかったことは、ひとえに小心者の私の責任であった。とはいえ、せせこましい世間を気にせずに、別の形で6人の論文集を出せたことは、幸いであった。

このたびは「弔いと想起・語り」なる題で、特集を組んだ。私を含めて、4人の論文をどこからも嘴を挟まねずに、無事刊行できそうである。寄稿していただいた、武蔵大学の村山絵美さん、日本学研究室出身の兵頭晶子さんと丸山泰明さんには感謝したい。これは我が惜別の辞であるとともに、私への手向けともなっているのではないかと思っている。ありがたいものである。

故人 我が趣きを賞し／壺を繋^{たづな}ぎて相^あい与^{とも}に至^{いた}る／荆^{はげ}を班^しきて松下^{しょうか}に坐^まし／数^{すう}辭^じにして已^まに復^{また}た酔^よう／父老^{ふらう} 雑^{ざつ}乱^{らん}して言^いい／觴^{しょう}酌^{しやく}行^{こう}次^じを失^しす／我^{われ}れ有^あるを知^しるを覚^さえず／安^{やす}くんぞ知^しらん 物^{もの}を貴^たしと為^なすを／悠悠^{ゆうゆう}として留^{とど}まる所^{ところ}に迷^まう／酒^{しゅ}中^{ちゆう}に深^こ味^み有^あり

陶淵明の「飲酒二十首」(『中国名詩選』上、川合康三編訳、岩波文庫)のうちの一篇である。この詩のように、松の下ではなく、桜の樹の下で、ぜひとも近々酒盃を重ねたいものである。私はこれまで、「悠悠として留まる所に迷う」といった風だったと、しみりと思ってしまうのである。

この『日本学報』の刊行には林葉子さんの尽力があった。また、英文タイトルはソレアス・モッタさんのお世話になった。ありがとう。2015年度は、4月に北村毅さんが来て、10月には安岡健一さんが来て、稀有のことだが、6人体制の日本学研究室となった。それも東の間、2016年3月末、桜の咲き始める頃には、助教の林葉子さん、それに私が去ることになる。日本学研究室のさらなる発展をしみじみと祈念したい。

(川村邦光)

日 本 学 報 第 35 号

編 集 者 大阪大学大学院文学研究科日本学研究室

印 刷 所 株式会社ケーエスアイ

発 行 者 大阪大学大学院文学研究科日本学研究室

2016年3月18日 印 刷

2016年3月20日 発 行

(〒560-8532) 大阪府豊中市待兼山町1-5
電話 (06) 6850-6111 (内線5135)
